

令和3年度

学校いじめ防止基本方針

東吾妻町立東小学校

「学校いじめ防止基本方針」

東吾妻町立東小学校

1 いじめの防止等の基本的な方針

(1) 基本理念

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。したがって、本校では、すべての児童がいじめを行わず、及び他の児童に対して行われるいじめを認識しながらこれを放置することがないように、いじめが身体に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する児童の理解を深めることを旨として、いじめの防止等のための対策を行う。

(2) いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの。（いじめ防止対策推進法第2条の規定による）

(3) 学校の責務

いじめが行われず、すべての児童が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるように、保護者他関係者との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合には、適切かつ迅速にこれに対処し、さらにその再発防止に努める。

2 本校におけるいじめの防止等のための基本的な姿勢

- 学校、学級内で児童一人一人が認められ、お互いを大切にしよう温かな人間関係を築く。
- 学校、学級内にいじめを許さない雰囲気を作り、いじめを未然に防止する。
- 児童、教職員の人権尊重の意識を高める。
- 児童の思いやりの心や命の大切さを育む道徳教育や学級指導を充実する。
- 児童一人一人の変化に気づき、児童・保護者からの話を親身になって聞く姿勢をもつ。
- いじめを早期に発見し、組織的対応を行い、いじめ問題を早期に解決する。
- いじめ問題について、保護者・地域・関係機関との連携を深める。

3 校内体制

- (1) 校務分掌に「いじめ対策委員会」を位置づける。構成は、校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、養護教諭、その他校長が認める者とする。
- (2) 役割は、本校におけるいじめ防止等の取組に関することや、相談内容の把握、児童、保護者へのいじめ防止の啓発に関することを行う。
- (3) いじめの相談があった場合には、当該担任を加え、事実関係の把握、関係児童・保護者への対応について協議して行う。なお、いじめに関する情報については、児童の個人情報取り扱いに考慮しながら、本校の教職員が共有するようにする。
- (4) 学校評価においては、年度毎の取組において、児童、保護者からのアンケート調査、教職員の評価を行い、その結果を公表し次年度の取組の改善に生かす。

4 いじめ問題への対策

(1) いじめの未然防止

- ① 日常の学校生活を通して
 - ・ 楽しく気持ちよく学習を進めるために、名前に「さん」「君」をつけて呼ぶことや、先生や友達に丁寧な言葉遣いをする、人に迷惑を掛けないことなどを指導する。
 - ・ 学級全体が落ち着いて学習できるようにするために、話の仕方や聞き方、姿勢、集団行動などの学習規律を守らせる。
 - ・ 児童の「居場所づくり」「絆づくり」を支援する。
- ② 楽しい授業・わかる授業づくり
 - ・ 一人一人の児童の定着度や課題の把握に努め、基礎的・基本的事項の徹底習得を図る。
 - ・ 算教科では、T Tや習熟度別少人数指導の充実を図る。
 - ・ グループ学習や協同的な活動を工夫し、すべての児童が参加・活躍できる授業づくりを進め、学習活動での達成感・成就感を味わわせる。
- ③ 校内研修
 - ・ 言語活動の充実に向けて、全教科領域において具体的な手立てを工夫し、ともに学び合う活動を通して、進んで学習に取り組み、成就感を味わえる児童を育てる。
 - ・ 本基本方針を活用した校内研修を実施し、いじめの問題について、全ての教職員で共通理解を図る。また、教職員一人一人に様々なスキルや指導方法を身に付けさせるなど教職員の指導力やいじめの認知能力を高める研修や、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家を講師とした研修、具体的な事例研究を計画的に実施していく。
- ④ 道徳の授業を通して
 - ・ 思いやりの心や児童一人一人がかけがえのない存在であるといった命を大切にすることを育む。
 - ・ 児童の自尊感情や自己肯定感・自己有用感を高める。
 - ・ 道徳の資料を通し、相手の心情をよく考え、自己の言動を振り返るようにさせる。
 - ・ いじめの構造やいじめ問題の対処等「いじめ問題」についての理解を深める。
 - ・ 全ての教育活動において道徳教育を実践し、人権尊重の精神や思いやりの心などを育てる。
- ⑤ 特別活動の取組を通して
 - ・ 全教育活動を通して望ましい人間関係を築く。
 - ・ よりよい集団活動を通して学校・学級への所属感を高め、児童の自治的な能力や自主的な態度を育てる。
 - ・ 学級の支持的風土を育む(安心・安全な居場所づくり)。学級全員で自分たちの学級集団としての目標を決めさせ、全員で協力する活動を意図的・計画的に実施する。
- ⑥ 学級活動を通して
 - ・ 学級の諸問題について話し合っ解決する活動を通し、望ましい人間関係や社会参画の態度を育てる。
 - ・ 係活動の充実として、児童の力で学級生活を豊かにするために、自分たちで話し合っ係の組織をつくり、全員でいくつかの係に分かれて自主的に活動を行うことによって自己有用感や協力・信頼に基づく友情を大切にすることを意識を高める。

- ⑦ 児童会活動を通して
 - ・ 委員会活動の充実
自ら楽しく豊かな学校の生活をつくりたいという課題意識をもって、指示待ちではなく自分たちで問題を見付けたり話し合ったりして解決できる力を育てる。
 - ・ たてわり班活動の充実
高学年ではリーダーシップや思いやりの心、低学年では上級生に対するあこがれの気持ちを育てる。
- ⑧ クラブ活動を通して
共通の興味・関心をもつ児童により、どの学年のメンバーも楽しめるように工夫することを通して、豊かな人間性、社会性を育てる。
- ⑨ 学校行事を通して
 - ・ 自主性・協調性の育成
児童の発意・発想を効果的に取り入れることにより、児童の自主性を育む。行事ごとに成就感・達成感を味わわせ、児童の所属感や連帯感を高め、協調性の育成につなげる。
 - ・ 体験活動の充実
公共の精神を養い、集団活動を行うのに必要な生きて働く知恵や技能を身に付ける。
 - ・ 家庭や地域との連携
多くの地域の方々や保護者の参加を得られるように工夫し、児童の生き生きと学習したり生活したりする活動の様子を見てもらう機会を作る。
- ⑩ 児童の実態把握を通して
ソーシャルスキルトレーニングを実施したり、Q U検査結果を活用したりして、児童の実態を十分に把握し、よりよい学級経営に努める。
- ⑪ 校務の効率化
教職員が児童と向き合い、相談しやすい環境を作るなど、いじめの防止等に適切に取り組んでいくことができるようにするため、一部の教職員に過重な負担がかからないように校務分掌を適正化し、組織的体制を整えるなど、校務の効率化を図る。

(2) いじめの早期発見

- ① いじめられた児童、いじめた児童が発することの多いサインを、教職員及び保護者で共有する。
 - 児童の発する具体的なサインの掌握・・・P. 4・5参照
- ② いじめの事実がないかどうかについて、全ての児童を対象に定期的なアンケートを実施する。
 - 学校独自のいじめアンケートの実施（毎月）
- ③ 11月に教育相談週間を設け、保護者が相談しやすい雰囲気づくりを目指す。
 - 教育相談週間の設定と保護者との個人面談の実施
- ④ いじめ対策委員会でアンケート結果や相談内容のほか、各学級担任等のもっているいじめにつながる情報、配慮を要する児童に関する情報等を収集し、教職員間での共有を図る。
 - 職員会議や生徒指導上情報交換会での情報の共有
 - 過去のいじめ事例のファイリング蓄積
 - スクールカウンセラーや担任による児童面談の情報共有
 - 保護者と情報を共有する（連絡ノート、電話、家庭訪問、PTAの会議等）
 - 地域と日常的に連携する（地域行事への参加、関係機関との情報共有）

(3) いじめの早期解消

- ① いじめの発見・通報を受けたときの対応
 - 職員は、「これぐらい」という感覚をなくし、その時、その場で、いじめの行為をすぐに止めさせる。
 - いじめられている児童や通報した児童の身の安全の確保を最優先とした措置をとる。
 - いじめの事実について、管理職に速やかに報告する。
- ② 情報の共有
 - 管理職は①の事実について速やかに、全職員へ報告し、情報の共有化を図る。
- ③ 事実関係についての調査
 - いじめられている児童や保護者の立場に立ち、詳細な事実確認を行う。
 - 職員に報告後、いじめ対策委員会で協議し、調査の方針について決定する。
 - 調査の時点で、重大事態であると判断された場合は、校長が町教育委員会へ直ちに報告する。
 - 児童からの聴き取りに当たっては、児童が話をしやすいよう担当する職員を複数選任する。
 - 必要な場合には、全児童への調査を行う。この場合に調査の結果をいじめられた児童またはその保護者に提供する場合があることを予め念頭に置き、調査に先立ちその旨を調査対象となる在校生やその保護者に説明する等の措置が必要であることに留意する。
- ④ 解決に向けた指導及び支援
 - 専門的な支援などが必要な場合には、町教育委員会及び警察等の関係機関へ相談する。
 - 解決を第一に考え、保護者及びその他の関係者との適時・適切な情報の共有を図る。
 - 指導及び支援方針の変更等が必要な場合は、随時いじめ対策委員会で協議し、校長が決定する。
 - 事実関係が把握された時点で、いじめ対策委員会において協議し、校長が指導及び支援の方針を決定する。
 - 校長は事実に基づき、児童や保護者に説明責任を果たす。
 - すべての指導及び支援について、学級担任等が抱え込むことがないように、学校全体で組織的に対応する。
 - 被害の児童やその保護者に対してスクールカウンセラー等がケアをする。
 - 加害の児童には、行為の善悪をしっかりと理解させ、反省・謝罪をさせる。
 - 加害の児童に対する組織的・継続的な観察・指導を行う。
 - 学校安全ボランティアによる登下校時の見守りを行う。

(4) いじめの重大事態への対処

- ① いじめ事案が次の状況にある場合には、重大事態として直ちに、校長が町教育委員会に報告する。
 - 児童の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある場合
 - ・ 児童が自殺を企図した場合
 - ・ 精神性の疾患を発症した場合
 - ・ 身体に重大な傷害を負った場合
 - ・ 高額の金品を奪い取られた場合など
 - 児童が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている場合
 - ・ 年間の欠席が30日程度以上の場合

- ・ 連続した欠席の場合は、状況により判断する
- ② 事案について、事実関係等その他の必要な情報を提供する責任を有することを踏まえ、調査により明らかになった事実関係について、個人情報保護に配慮しつつ、適時・適切な方法で説明する。
 - いじめ対策緊急保護者会の開催
- ③ その他
 - 被害の児童に対する複数の教員による保護や情報共有の徹底
 - 被害の児童への緊急避難措置の検討、実施
 - 加害の児童への懲戒や出席停止の検討
 - 警察への相談・通報や教育相談所等との連絡
 - 法第28条に基づく調査を実施するため教育委員会が設置する組織との連携・協力

5 保護者との連携について

- 児童が発する変化のサインに気づいたら、学校に相談することの大切さを伝える。
- 「いじめ問題」の解決には、保護者との連携が大切であることを学校だより、授業公開日の道徳の授業などで伝えていく。
- アンケート調査等を活用し、児童の人間関係や学校生活等の悩みなどを把握し、いじめの未然防止に努め、共に解決することで、保護者との信頼関係を深める。

6 教育委員会をはじめ関係機関との連携について

- いじめの事実を確認した場合は、東吾妻町教育委員会へ報告を行う。また、重大事態発生時の対応については、法に則して、東吾妻町教育委員会へ報告し、指導・助言を求め、学校だけでは解決が困難な場合は、警察（スクールサポーター）や関係機関（児童相談所・スクールソーシャルワーカー）などの協力を得て、学校として組織的に動く。
- 地域全体で、「いじめは絶対に許されない」という認識を広めることが大切であるということからPTAや学校評議委員会の会合等で、いじめ問題などの健全育成についての話し合いを進める。

7 公表、振り返りについて

- いじめ問題を隠蔽しない。
- 学校いじめ防止基本方針をもとにした学校組織が、機能しているか、定期的に点検、評価を行う。
- 学校だより、ホームページ等で、自校の「学校いじめ防止基本方針」を公表する。
- いじめの問題への取組を、保護者、児童、教職員で振り返り、その結果を踏まえて改善に取り組む。

8 いじめ防止指導計画と取組評価アンケート（学校評価）

- いじめの未然防止や早期発見のために年間の計画を立て、学校全体で組織的、計画的にいじめ防止に取り組む。
- PDCAサイクルに沿った取組を行う。いじめの未然防止のために実施された取組の効果をアンケートを通して検証する。アンケートは学校評価を利用する。

【いじめ防止指導計画】

	教職員の活動	児童の活動	いじめ早期発見の措置
通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個を大切にし個に応じたわかる授業の展開 ・ 児童の発するいじめサインのチェック ・ 職員会議 ・ 校内研修 ・ 過去のいじめ事例の蓄積 ・ いじめアンケート ・ 学校だより、学級通信 ・ 道徳教育、人権教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異学年交流の実施 (団活動、縦割り清掃) ・ 授業中の話し合い活動 ・ せいかつアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の発するいじめサインの活用 ・ 過去のいじめ事例の蓄積 ・ いじめアンケート
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級や児童に関する進級時の引き継ぎ ・ P T A委員会等で学校の方針説明 ・ 学級懇談会での担任によるいじめに対する方針説明 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級や児童に関する進級時の引き継ぎ ・ 学級懇談会での担任によるいじめに対する方針説明
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談期間 ・ 人権集会 ・ 授業参観と懇談会 ・ 学校評価アンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談期間 ・ 人権集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談期間 ・ 授業参観と懇談会
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価アンケート検証 ・ 授業参観と懇談会 ・ 今年度のまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観と懇談会

いじめやいやなことから、東小のみんなを守るためのアンケートです。
正直な気持ちを書いてください。

せいかつアンケート

年 名まえ ()

下に書いてあることに答えてください。(はい、いいえ)のどちらかに○印をつけてください。○月中のことで答えてください。

- 1 悪口を言われたり、いやな思いをしている。(はい、いいえ)
- 2 なかまはずれにされたり、無視されたりしている。(はい、いいえ)
- 3 持ち物をかくされたり、とられたりしている。(はい、いいえ)
- 4 ぶたれたり、けられたりされている。(はい、いいえ)
- 5 今、不安なことや、こまったこと、なやんでいることがあったら下にかいてください。

- 6 友だちにしてあげたことや、友だちからしてもらってうれしかったことをかきましょう。